

平成 27 年度全国学力・学習状況調査自校採点にかかる採点研修会を実施！

～ 4月27日（月） 三重県総合教育センター 多目的ホール 他 ～

学力向上に向けた指導体制確立支援事業実践推進校担当者や小中学校管理職、指導教諭、市町等教育委員会担当者、希望する学校の教諭等あわせて 290 名が参加しました。

県教育委員会指導主事から全国学力・学習状況調査の目的や意味、自校採点の意義、学力向上に関する取組状況について説明しました。

最初は類型に分けることの難しさに戸惑っていた参加者も、「条件に着目し、類型を分けていく」等、的を絞った話し合いをすることで、効率的に採点を進めることが出来るようになりました。



自分たち
で採点を
実践！

●●● 参加者アンケートより ●●●

- 子どもたちの実態がはっきりとわかってきた今、明日からの授業にどのように取り入れていくか、**学年や他学年の先生と話し合い**、少しでも進めていきたいと思う。（小学校教員）
- 誤答と思われる解答に同じような傾向があった。何故そのような解答になったのかを話し合うことをとおして子どもたちの実態を把握することが**授業改善**につながっていくのだと実感した。また、他校の解答を見せてもらうと、各校の課題がよく分かった。とても有意義な研修であった。（小学校指導教諭）
- 今年度初めてコピーして採点した。見えてきたことがたくさんある。それらを**組織として共有**し、授業改善につなげていきたい。（小学校管理職）
- 採点研修会により採点基準がより明確になり、効率的な作業ができると感じた。また、**組織的に取り組む**大切さを、所属校に持ち帰り活かしていきたい。（中学校教員）
- 最初難しかったが、**グループで助けてもらい**理解できるようになった。今回の研修で教えていただいたことを自校の教職員と共有し、自校採点にあたりたい。（中学校指導教諭）
- 実際に採点をしてみて細かいノウハウがよく分かった。また、**グループで相談**することでわかったことも多くあった。（中学校管理職）
- 採点研修会に、各校から代表者が参加できたらよかったと感じた。各校の先生方にぜひ体験して頂きたい。教委から各校に本日の研修会について伝えていきたい。（市町教育委員会関係者）
- 4月に採点研修会を実施することで、8月の結果公表後でない生徒の指導に活かせなかった強みや弱みのポイントを**早い段階で授業に反映**させることができる。（市町教育委員会関係者）



自校採点を授業改善に！

自校採点のねらい

自校採点をすることにより、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善を図り、早期からの授業改善のPDCAサイクルの確立を促進する。

●●● 自校採点のメリット ●●●

子どもたちの解答を「解答類型」に分けていくことをとおし、「問題」を深く研究することができる



学習指導要領で求められている力の理解が深まる！

子どもたちの正答や誤答の傾向から自分の授業を振り返る



学習指導要領に基づく授業の実践と改善ができる！

採点作業の流れ

1 まず採点

- グループ（3～4人）で行う。
- グループ内で同時に全員が同じ問題を採点する。
- 分担した児童生徒の解答を類型に分ける。（採点）
- 悩んだ類型については、付箋を貼る。



2 悩んだら相談

- 1で付箋を貼った類型についてグループで相談する。
- 1と2を繰り返す



3 別の人とチェック

- 解答類型の選別判断が正しいかチェックを行う。



4 どこが課題かが見えてくる

- 児童生徒の解答の傾向をつかむ。



5 課題をもとにした授業改善

- 傾向から見える強み・弱みをふまえた授業改善を行う。

解答類型とは？

設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのもの



つまずきの傾向に着目！
学習指導の改善・充実を図る！



「解説資料」を
もとに
みんなで相談！

問い合わせ先：学力向上推進プロジェクトチーム 059-224-2931

子どもたちが「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を！！

それぞれの調査問題の解説の他に、問題作成の基本理念、問題作成の枠組み、問題の概要等についても詳しく書かれています。

一人ひとりの児童生徒の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて、ぜひ「解説資料」を活用しましょう。

解説資料 DE 指導改善！！

【小学校算数 解説資料 19～24ページより】

算数 A 2 四則計算 設問 (2) 「 $6.79 - 0.8$ 」

1. 出題の趣旨 ▶ 調査問題ごとの出題の意図、把握しようとする力、場面設定などについて記述しています。

整数、小数、分数の計算をすることができるかどうかをみる。

2. 解説 ▶ 設問ごとの出題の意図、解答類型を示しています。

趣旨 末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる。

- 学習指導要領における領域・内容 → 〔第4学年〕A 数と計算 (5)
- 評価の観点 → 数量や図形についての技能

解答類型 (一部抜粋)

問題番号	解答類型	正答
2 (2)	1 5.99 と解答しているもの	◎
	2 59.9 または 599 と解答しているもの	
	3 0.599 と解答しているもの	
	4 6.71 または 67.1 または 671 と解答しているもの	
	0 無回答	

■ 誤答について

【例 1】 0.599 (解答類型 3)

位を正しくそろえて計算しているが、小数点の位置に関しては、乗法の筆算と同様に小数点の位置を移動している。

【例 2】 6.71 または 67.1 または 671 (解答類型 4)

位を正しくそろえずに、右図のように計算している。

$$\begin{array}{r} 6.79 \\ - 0.8 \\ \hline 6.71 \end{array}$$

(参考) 関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率
H20 A1 (3)	$6 + 0.5$ を計算する	83.1%
H22 A1 (4)	$8 - 0.5$ を計算する	83.4%
H24 A1 (3)	$4.6 - 0.21$ を計算する	63.5%
H25 A1 (2)	$0.75 + 0.9$ を計算する	71.5%
H26 A1 (3)	$9 - 0.8$ を計算する	83.9%

3. 学習指導に当たって ▶ 学習指導の改善・充実を図る際のポイントを記述しています。

小数の加法や減法は、整数と同じように、同じ位どうしを計算することを確実に理解できるようにする。

数を相対的に捉え、整数の計算に置き換える活動を重視することで、同じ位どうしを計算することの理解を確実にすることが考えられる。

少人数指導やTTによるきめ細かい指導を行い、 基礎基本の定着を図る～算数科を中心に～

●下外城田小学校長からのコメント●

特に「授業規律の確立」「『めあて』『ふりかえり』を大切にしたい印象に残る授業展開」「ICT活用によるわかりやすい授業」に取り組んでいます。そして、今必要な指導内容や指導形態を選択し、加配教員を活用したり重点的指導を行ったりして、子どもたちに「わかる喜び」を実感させることを目指しています。

※TT：チーム・ティーチング

取組 1

●全国学力・学習状況調査の分析結果に基づく課題解決に向けた取組

全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から見えてきた弱みを、全児童が授業や週に一度の補充学習【ステップアップ学習】で復習し、理解を補った。

■A問題の分析結果より

- 加減乗除の計算については全体的に良くできている。
- 「割合」「単位量当たりの量」の内容に苦手意識を持つ児童が多い。
なぜ割るのか？何を求めるために計算するのか？？

▶ 線分図をかくメリットを実感させながら習熟を図った

■B問題の分析結果より

- 割合に類する内容に弱さがある。

▶ 中学進学に備え、6年間の総復習の中で、重点的に補充学習に取り組んだ



取組 2

●全国学力・学習状況調査結果及び学校の取組等の情報共有に基づく家庭・地域と連携した取組

■「ノーテレビ・ノーゲーム週間」

学期に1～2回設定し、家庭の協力を得てテレビやゲームの時間を勉強・読書・家庭会話にふりかえていく試みを実施した。

- ▶ 半数以上の児童のテレビやゲームの時間が減少
- ▶ 学校便りで地域にも情報発信 ～ 地域の後押しに期待！ ～

取組 3

●効果的な少人数指導の取組

単元や学習内容、学習段階に応じた、指導形態（少人数とTT）や学習集団（学力均等あるいは習熟度別）を選択し、より効果的な指導を行った。

今後の取組

- 「めあて」と「ふりかえり」を大切にして授業改善に取り組んでいく
- ステップアップ学習での補充学習を大切にしていく

全員で
共通理解！

●学力向上アドバイザーからのコメント●

先生方が前向きで熱心であり、校内研修においても活発な協議が行われていました。また、TTによる指導や学級を2つに分けて少人数指導を実践するなど、子どもたちのそれぞれの状況に応じたきめ細かい指導により基礎基本の定着が図られていました。学校全体で、授業での課題や成果を確認しながら、全校体制で子どもたちの学力向上に向けて取り組んでいるところが、下外城田小学校の素敵なおところです。